■島木赤彦 歌人。{アララギ}の編集発行を主導して歌壇進出に大きく寄与するも早世。作風は大正短歌の典型。

しまきあかひこ

三つの反乱・1876= 長野県上諏訪村で、旧諏訪藩士で教師となった塚原浅茅・さいの四男に生まれる。名は俊彦。

西南戦争・・1877= 1歳:父の勤務先の豊平村に転居し、古田学校校舎内に住む。

明治14年政変1881= 5歳: 古田学校初等科に入学,

内閣発足・・1885= 9歳:母が死去。

帝国大学始・1886=10歳:卒業し、豊平村南大塩高等小学校に進む。父が再婚。

初の対等条約1888=12歳:卒業し、郡立諏訪高等小学校3年に編入学。

帝国憲法発布1889=13歳:

帝国議会先⁴1609-160k: 卒業し,育英会(のちの諏訪中学校)に入って指導受け,傭教員となって,教職の道を歩み始め, 足尾鉱毒始・1891=15歳: この頃から,友人と,**_和歌・俳句を作り始める。** 1892=16歳: **_和歌を{少年文庫}に投稿し,掲載される。** 郡司千島探検1893=17歳: **_{少年文庫}に新体詩を投稿,「流行と軽佻」を発表。**

日清戦争始・1894=18歳:いくつかの学校の傭教員を経て、長野尋常師範学校に入学。同級に太田水穂。

奔放な学校生活送りながら,**」毎年多数の雑誌に新体詩や和歌を発表**,

子規句歌革新1898=22歳:卒業。久保田政信の養嗣子となり、その娘うたと結婚。北安曇郡の尋常小学校訓導になると、早くも信濃教

育会に議案提出,その機関誌 {信濃教育} に意見や研究を発表し続けて行く。**_正岡子規の歌集に魅せられ,**

t*7/国産化・1900=24歳:長男が誕生。_新聞{日本}に応募した短歌が正岡子規の選で入選。太田水穂らと同好会つくる。

教科書疑獄・1902=26歳:長女が誕生するも夭折,出産後不調だった妻も死去。妻の妹と再婚。

日比谷公園・1903=27歳: 次女が誕生。 太田水穂らと{比牟呂}を創刊。伊藤左千夫の起こした{馬酔木}の読者となり、師事・親交始まる。画家平福百穂と文通始め、のち多くの援助を受けることになる。 日露戦争始・1904=28歳: 諏訪高等・高島尋常小学校に転任。伊藤左千夫を迎えて歌会を開く。

日露戦争終・1905=29歳:次男が誕生。_新体詩・和歌の集大成となる詩歌集「山上湖上」(太田水穂との合著)を刊行。 韓国反日暴動1907=31歳:{南信日々新聞}{長野新聞}歌壇選者となる。 7万77 創刊・1908=32歳:病気理由に退職し養鶏業始めるもすぐに失敗。_伊藤左千夫が編集する{アララギ}創刊号に10首発表し、 伊藤博文暗殺1909=33歳: 広丘尋常高等小学校校長になるも直ぐに排斥され, _{比牟呂}を合併, 以後同派の有力歌人として活躍。

大逆事件判決1911=35歳: 玉川尋常高等小学校校長になる。信濃教育会総会で「教育の革新について」意見発表。 明治天皇没・1912=36歳: 働きによって, 諏訪郡視学になる。*内部意見対立で{アララギ}廃刊の危機に, 斎藤茂吉と協力し継続。 大正政史・1913=37歳: 第一歌集「馬鈴薯の花」(中村憲吉と合著)。伊藤左千夫が急逝,

第一次大戦始1914=38歳: 退任して【アララギ】再建すべく、単身上京、21ヶ条要求・1915=39歳: *{アララギ】再建すべく、単身上京、21ヶ条要求・1915=39歳: *{アララギ】の編集兼発行人となり、作歌の道を"鍛錬道"とするストイックな態度で若手に影響与え、その歌壇的進出に大きく寄与して行く。第二歌集「切火」刊行。 民本主義・・1916=40歳: 結核性副睾丸炎の手術。この頃、小唄・小曲の類を多く作る。 ロシア革命・1917=41歳: 妻子を東京に呼寄せる。 (信濃教育)編集主任になると、毎号、巻頭論文を執筆、

本格政党内閣1918=42歳:実父が死去。

_{アララギ}編集経営の判断を一人でやるようになり, **ベ州仁条約・1919=43歳:義母が死去。**

大暴落・・・1920 = 44歳: 【信濃教育】編集主任を辞任。初めて童謡発表。{東京朝日新聞}短歌欄選者となる。**_第三歌集「氷魚」,** 原敬首相暗殺1921 **= 45歳**: 中村憲吉との互選歌集「島木赤彦選集」出版。

水平社結成・1922=46歳:「島木赤彦童謡集」、 関東大震災・1923=47歳: {アララギ震災報告号}出版し義捐金募る。満鉄の招聘で満州を講演旅行。 護憲三派圧勝1924=48歳: _{アララギ震災報告号}出版し義捐金募る。満鉄の招聘で満州を講演旅行。 護憲三派圧勝1924-40歳: _{アララギ震災報告号}出版し義捐金募る。満鉄の招聘で満州を講演旅行。

治安維持法・1925=49歳: 「万葉集の鑑賞及び其批評(前編)」を出版するが、 円本時代始・1926=50歳: *胃癌で、没した。没後、第五歌集「杮蔭集」刊行される。